

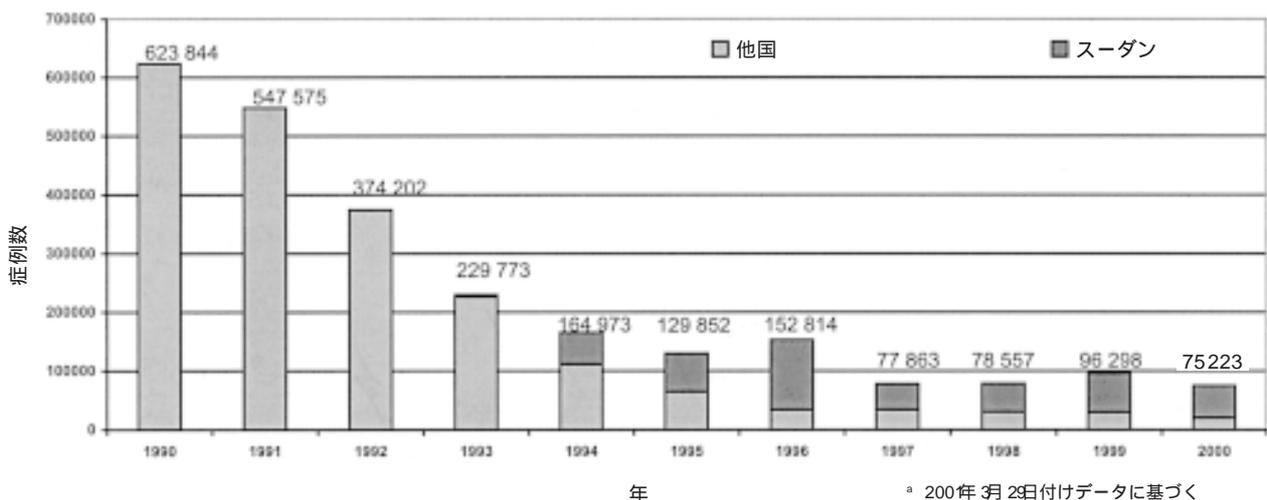
## 今週の話題：

## &lt;メジナ虫症の国際サーベイランス概要、2000年&gt;

メジナ虫症の伝播はアフリカ14カ国でのみ確認されている。イエメンでは1997年から報告数は0の状態が続き、ケニアでは1994年、カメルーン、セネガルでは1997年より伝播が見られなくなった。

2000年の報告例数は全世界で75,223例、その73% (54,890)はスーダンからの報告である。続いてニジェール(7,869)、ガーナ(7,402)に症例が多く、スーダン以外の報告例数の75%を占める。ブルキナ・ファソ(1,956)、ニジェール(1,166)、トーゴ(828)の3カ国が19% (計3,950)、それ以外の国で6% (3,950)を占める。(うち35例は中央アフリカ共和国、297例はコートジボアールからの報告)。報告例の約半数は2000年中に分離されたが、これは1999年度(54%)よりわずかに少ない。スーダンでも分離された症例数は前年度の51%から42%へと減少している。(表1、WERを参照のこと)

メジナ虫症が常在しているスーダン南部の一部の村ではアクセスが不可能であったため2000年度調査は行われず、疫学的動向は把握できていない。この世界メジナ虫症根絶キャンペーンの成功はスーダン南部での内戦や他国における情勢不安定の如何にかかっている。2000年度報告症例数の減少率(1999年度との比較)は国ごとに異なり、15%から78%に及んでいる。中央アフリカ共和国のみ27%の増加となっているが、他は減少している。全体症例数が少ないためである。ニジェールでの41%減少が世界平均に大きく影響している。ガーナでは減少率は18%と少ないが、以前と比べれば申し分のない結果である。

図1: メジナ虫症、世界の症例数、1999年-2000年<sup>a</sup>

アフリカでは90例が輸入感染症として報告されている。ガーナから27例、スーダンから16例、ブルキナ・ファソから16例、トーゴから9例、その他の国から9例のメジナ虫症が他国へと持ち込まれている。国境隣接地域の会合では各国間の隣接地域での情報の提供や感染症対策の提供を行うことがきめられた。

第6回メジナ虫症根絶計画監督者会議は2001年3月にトーゴのLomeでWHOによって組織され、世界20カ国からいくつかの国際的なNGOおよび支援組織(WHO、UNICEF)が会議に参加した。各国の管理者が2000年度報告を行い、グループワークや特別会議などが行われた。それと平行して、18カ国のデータ管理者のためにヘルスマップの適用(GIS)のトレーニングセッションが行われた。データはヘルスマップを通して収集された。プログラム管理者の交流会は2001年から2002年にかけての予算案を議論するために開かれた。

\*国別分析 ベニン：166例、前年と比べ64%の減少。ガーナ(11例)とトーゴ(9例)からの輸入例の報告。80%は封じ込められた。報告例はベニン全体に分散している。ブルキナ・ファソ：1,946例。前年に比べ、10%の減少。報告例は4番目に多い。71%は封じ込められた。主に国の中央部北で症例が見られる。カメルーン：輸入例のみ報告があったが、全例封じ込められた。謝礼金制度も導入された。中央アフリカ共和国：33例、輸入例が(スーダン2例)報告されている。外部の調査から南東の国境付近で、外部からの調査で50例が報告されている。1例も封じ込められていない。チャド：1998年から報告数はない。2001年2月の報告では、3例で、2000年の8月、9月にQueleye、Gurea行政区で起こったものである。すべて封じ込められた。コートジボアール：285例。前年と比べて、主に国の東部、南部で起こっており、39%減少。12の輸入例、(ガーナ6例、

ブルキナ・ファソ 6 例) 70%は収容の報告。エチオピア：54 例。前年に比べて 78%の減少。95%は封じ込められた。半数は Gambella 県 Abobo の 2 つの村で報告されている。南 Omo の Kuraz では前年の 249 例に比べ、18 例であった。ガーナ：7,402 例。前年に比べ、18%減少。80%は封じ込められた。2000 年に 4,571 の村でサーベイランスが続けられてきた。うち 981 の村から少なくとも 1 例の報告が年末までにあった。ケニア：2000 年には発生報告例はないが、4 例が Turkana 県から輸入例が報告されている。全例封じ込められた。マリ：282 例。前年と比べて 30% の減少。8 の輸入例 (ニジェール 1 例、ブルキナ・ファソ 7 例) 封じ込められたのは 57%。モーリタニア：136 例。前年に比べ 47%減少。22 村中 7 村で 85% を占める。ニジェール：1,156 例。主に南西部で発生しており、前年と比べ 40% 減少。ナイジェリア：今年スーダンの次に報告数が多かった。7,869 例。前年と比べ 41% 減少している。58% (4,589 例) は封じ込められている。59% が南東部 4 州から報告されている。一年を通して報告がみられるが、特に南東部および南西部で感染のピークである 1 月から 4 月は報告数が多かった。セネガル：1997 年以来報告はない。スーダン：54,890 例。前年の 66,097 例に比べ 17%の減少である。全世界の報告数の 73%を占めている。42%が封じ込められた。北部では 90 例が報告されたのみで、うち 49 例は南部流行地から移ってきた人によるものである。1999 年と比べると 77% の減少。ほとんどが封じ込められている。南部では 54,800 例の報告があり、11,140 例は政府が立ち入ることのできる 10 州からの報告で、43,660 例は Operation Lifeline Sudan (OLS) による報告である。1999 年に比べ、17% 減少している。しかし、立ち入ることのできない多くの南部の村を考慮に入れることはできない。サーベイランスで考慮に入れることのできる村の総数は 7,899 であるが、43% の村から 1 例以上の報告があり、22% の村から報告は 0 例で、36 の村からは報告がなかった。トーゴ：811 例。前年と比べ 49%の減少。72%は封じ込められている。17 例が輸入例として報告されている (ガーナ 10 例、ナイジェリア 4 例、ベニン 3 例)。ウガンダ：92 例。4 例が輸入例(スーダンより)。79% が封じ込められている。

\* 編集ノート：2000 年のメジナ虫根絶の進展はスーダンを除けば意義深いものであった。スーダン以外の 13 カ国では 3 年以内には他の強力な感染症戦略を用いて感染を中断させたい。感染のモニタリングを強化し積極的なサーベイランスを実施、村のヘルスワーカーの監督や動機付けを改良する必要がある。特にスーダンでは別の感染症関連と連携をはかり、協定の推進に努力すべきである。根絶した地域については、チャドやイエメンのように、再発を避けるために積極的なサーベイランスを確立すべきである。

表 1：アフリカ 16 カ国で 2000 年に報告されたメジナ虫症の患者の数を表している。

#### 流行ニュースの続報： < インフルエンザ >

フランス<sup>1</sup>(2001 年 4 月 21 日)<sup>1</sup>：3 月からインフルエンザ B 型の流行が続いている。日本(2001 年 4 月 21 日)<sup>2</sup>：分離してきたウイルスの数は減ってきたが、4 月第 2 週まで B 型の局所的な流行が続いている。ラトビア(2001 年 4 月 21 日)<sup>3</sup>：散発性の A 型 (H1N1) の分離の報告が続いている。B 型に関するいくつかの弱い流行が認められている。ウクライナ(2001 年 4 月 21 日)<sup>4</sup>：4 月の第 3 週にいくつかの地域の学童間でインフルエンザ様疾患の率が上昇している。2、3 の A 型ウイルスを分離したが、散発的に残っている。参照：<sup>1</sup>No.15,2001、p.116  
<sup>2</sup>No.12,2001、p.91 <sup>3</sup>No.7,2001、p.56 <sup>4</sup>No.9,2001、p.71

#### 出版紹介： < マラリアコントロール室内残留性スプレー殺虫薬 >

WHO ではマラリア防除のための介入として室内残留性スプレー使用を計画する際に考慮すべきさまざまな要因についてガイドを出版した。本著 Malaria Vector Control-Insecticides for indoor residual spraying ではこの 30 年以上にわたる WHO の経験について書かれており保健機関やプログラム管理者がいつこのような室内残留性スプレーが有効なコントロール手段となるのかを理解し、最も適切な殺虫薬を選ぶ手助けとなることを目的とする。コントロールプログラムの一部としての室内スプレーの一般的な原理および特定の殺虫薬の特徴、の両者を網羅している。詳細は WER 参照のこと。